

第45回北米熱測定学会(NATAS)報告

2018年8月6日～9日、アメリカのペンシルバニア大学で、第45回北米熱測定学会(North American Thermal Analysis Society Conference : NATAS)が開催されました。ペンシルバニア大学は、米国屈指の名門私立大学連合であるアイビー・リーグの1校であり、Times2018年世界大学ランキングでトップ10位にランクインするなど世界屈指の名門大学です。米国の有名総合大学としては比較的珍しく大都市に位置する都市型大学でもあり、キャンパスの雰囲気はさすが名門と感じさせるものがありました。日本からは、NATAS Fellows Awardを受賞された広島大学 古賀先生、産総研 津越先生、(株)ベテル 羽鳥氏が参加されました。



学会会場 (Houston Hall) と学会風景

今回の学会では、5つの会場に分かれ、19のセッションにおいて、Plenary Lecture 4件、口頭133件、ポスター29件が発表されました。各セッションを概観すると、ペンシルバニア大学のDepartment of Chemistryとジョイントで開催されたGlass, Thin Films, and Nanoconfinementでの発表件数が17件と最も多く、続いて本誌特集とも関連するEnergetic Materials and Thermal Hazardsおよび、Kineticsが13件と続いていました。

今回の学会では2件のHonorary Symposiumが開催されました。2日目の午前中には最も格式の高い会場(Auditorium)において、Chi-Min Shu, Tao Wang 両先生の座長による、Wei-Ping Pan先生の退職記念のセッションがありました。



Pan先生を囲んで (Honorary Session for Wei-Ping Pan on his Retirementセッションにて)

ここでは、Shu先生と古賀先生のKeynote Lectureのほか、著者を含め10件の発表がありました。全体を通じて、非常に興味深い発表が多く、また、Pan先生を囲みとても和やかなセッションでした。

もう一件のHonorary Symposiumは、熱分析関連学会の要職を歴任されたGallagher先生の85回目の誕生日をお祝い

するセッションでした。ここでも最初に Netzsch NATAS Fellowship Award の受賞講演が、古賀先生により行われました。古賀先生は、今回の学会において重要な講演を2件もされており、先生のこれまでのこの研究分野での貢献度の高さを、再認識する機会となりました。

延べ4日間の会期中はほぼ晴れで、気温は日本と同程度に高かったものの、湿度が低いせいで木陰は涼しく、快適な時間が過ごせました。2日目の夜には、TAインストゥルメント主催の夕食会が、市中心部のLoews Philadelphia Hotel 33階で開催されました。ここからは、町のスカイラインが一望でき、市庁舎の上にあるウィリアム・ペンの像を、真直に見ることができました。



市中心の風景 (右前が市庁舎)

3日目の夜には、Houston Hall内のBodek Loungeにおいて、バンケットが開催されました。NATAS Fellowとなられた古賀先生の受賞式に続いて、一般のポスター賞の発表で、(株)ベテルの羽鳥氏の名前が呼ばれた際には、日本人参加者一同、非常に盛り上がりました。彼らの発表は、炭素繊維複合材料の熱拡散率測定による配向性評価に関する研究で、本号応用研究のページで紹介されています。

ポスター賞の受賞風景
Kessler会長とベテル羽鳥氏

また、会の終わりには、恒例のNATASの歌が披露され、会場の盛り上がりも最高潮に達しました。

2019年の北米熱測定学会は、University of Rhode Islandのお世話で、NewportのGurney's Resortで8月6日～9日に開催される予定です。ご興味ある方はぜひ参加されたいかがでしょうか。

(星薬科大学 米持 悦生)